

令和2年度 苫小牧市立澄川小学校経営方針

1. 学校教育目標

人間性豊かな子どもを育てる

- | | |
|-----------------------|----------|
| ○自ら学ぶ創造的な態度をもつ子ども | 《かしこく》 |
| ○豊かな心をもち人と協力できる子ども | 《なかよく》 |
| ○健康なからだをもち最後までやりぬく子ども | 《がんばりぬく》 |

『澄川小学校の子 心得 10 箇条』

2. 目指す姿

- (1) 子どもにとって楽しい学校
 - ・授業が分かりやすく楽しい。
 - ・学級ではいじめがなく、一人一人が大切にされる。
 - ・自分を認めてくれる友達や先生がいる。

- (2) 教職員にとってやりがいのある学校
 - ・互いに切磋琢磨して自らの指導力を高めている。
 - ・子どもの成長のために同僚性や協働性を発揮している。
 - ・教育活動に携わる誇り、自信、喜びを感じている。

- (3) 保護者にとって安心して通わせられる学校
 - ・学校や学級の様子がよくわかる。
 - ・先生方が厳しさと優しさをもって育ててくれる。
 - ・毎日元気に学校に通っている。

- (4) 地域にとってふるさとと思える学校
 - ・様々な行事を通して子どもたちと触れ合うことができる。
 - ・地域の声に誠実に対応してくれる。

3. 学校経営の重点方針〈澄川小学校が目指す学校〉

(1) 主体的・対話的で深い学びを進め、確かな学力を育む学校(かしこい子)

本市の授業改善の推進に向けた共通取組事項（授業における焦点化、イメージ化、視覚化や評価基準と指導との一体化の推進）に基づく**徹底した授業改善**を通して、アクティブ・ラーニングの視点から、子どもがわかる授業を行う。さらに、**継続した家庭学習の定着**を目指し、家庭と連携を図り、宿題による習慣化と自主学習の確立に向けた支援を学校が積極的に行う。

読書教育を基盤とする**活動の推進**に向けて、本に触れる機会を増やすとともに、蔵書の充実にも努め、図書の出借や親子読書の推進と**並行読書の充実**を図り、授業における学校図書館の利用拡大を進める。また、**特別支援教育を推進**するため研修の充実を図り、一人一人に応じた支援や手立てを大切にする特別支援教育の考え方を全ての学級の学びに活かすように努める。

(2) 人間性豊かな心を育む学校(なかよい子)

不登校の未然防止に向けて、子どもの心をつかもうとする教職員の姿勢を育み、子どもたちが「学校が楽しい」と感じるよう、魅力ある学校づくりや自己肯定感・有用感を育む居場所づくりを行う。また、不登校の早期発見、丁寧でスピード感のある対応に努める。

いじめ防止に向けて、全ての子どもたちが「いじめを絶対許さない」と考えることができるよう、子どもが主体的に考え、活動する集会やルールづくりを行う。

道徳的な実践力を高めるため、子どもたちが「**考え、議論する道徳**」の授業となるよう授業改善に努め、参観日に道徳の授業公開を設定する。また、地域人材を生かした「**こころの授業**」を実施し、命の大切さや思いやり、がん等の病気や健康について考えるなど、子どもたちが心と命について自ら気づくような指導の充実に努める。

(3) 健康な体づくりを進め、粘り強く生きる力を育む学校(がんばりぬく子)

未来をたくましく生きて働くための「健康な体」は、「確かな学力」と「豊かな心」を育む基盤であり、家庭と連携した**基本的な生活習慣の定着**が重要となる。また、「早寝・早起き・朝ごはん」や情報機器の利用などの啓発を進め、地域人材を活用した食育や情報教育を推進し、保護者の協力を得ながら、子どもたちへ規則正しい生活習慣を身に付けさせる。

運動の日常化を通して、たくましく健康な体づくりを進める学校を目指すために、子どもが主体的に運動に取り組む環境を整え、体力づくりや**体育授業の改善・充実**を図る。

(4) 学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される学校(学校像)

学校が行う全ての取組を、どの学級でも全ての教師が子どもたちのために全力で行い、様々な課題に対して「**チーム学校**」として組織的に解決を図る**組織力を高める**。若手職員、ミドルリーダーだけでなく、全教職員が以後の勤務校や人生に生かせるように進んで研修し、**教師力**やそれぞれの経験に応じた力量を**向上させる**。**家庭や地域社会・緑陵中学校区エリアでの連携**に進んで取り組み、「**地域と共にある学校**」として地域全体で子どもを育てる環境を創る。包括的な学校改善を推進し、学校力を高め、保護者が安心して子どもを預けられる学校、地域からあたたかく支援される「**信頼される学校**」を目指す。

4. 今年度の重点取組事項

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現と確かな学力を育てる取組

①徹底した授業改善

- 苫小牧市共通取組事項（焦点化、イメージ化、視覚化）の推進
- 評価基準と指導の一体化の推進
- 単元計画、ノート計画（国語科・算数科）の作成とデータ保存
- 全教員が授業改善を目指した指導計画の作成を行い、授業公開する。
- 効果的なICT活用の推進（研修、スキル向上）
- 研修講座、LIT授業公開、研究会の活用
- 授業に関わるメンター研修の推進
- 学習規律、澄川小スタンダードの定着

＜数値目標＞学校評価児童・保護者アンケートにおいて「勉強がわかりやすい」、「授業がわかりやすい」という回答を児童が95%以上、保護者が90%以上にする。

②家庭学習の定着

- 宿題と自主学習による毎日の復習の確立
- 家庭学習の手引きと学習計画（高学年）の活用
- 家庭学習の質の向上（活用力を身に付ける）

＜数値目標＞学校評価児童、保護者アンケートにおいて「学校や家でしっかり勉強ができる」という回答を児童が90%以上、保護者が75%以上にする。

③読書活動の推進

- 朝読書、ボランティアによる読み聞かせ等、図書コーナーによる読書機会の充実
- 国語科における並行読書の推進
- 図書館利用ガイドによる授業での活用の推進
- 親子読書の推進

＜数値目標＞1人当たりの学校図書貸出数の目標を、低学年14冊、中学年16冊、高学年12冊以上にする。

④特別支援教育の充実

- 通常学級における特別な支援や配慮を要する児童への手立ての確立（UD）
- 学習上の困難に応じた指導内容や指導方法を工夫し、自立活動の指導の充実を図る。
- 特別支援学級や通級指導における個別の支援計画及び指導計画の全員作成と活用
- 障がい者理解教育、心のバリアフリーのための交流及び共同学習の充実
- 特別支援教育について研修を深め、専門性の向上を図る。
- 外部の専門機関等との連携の推進

＜数値目標＞学校評価自己評価において「特別支援教育の充実」という回答を90%以上にする。

(2) 豊かな人間性を育て、健康な体づくりを進める取組

⑤不登校への対応

- SSW及び関係機関との連携
- 子ども支援ツール「ほっと」の活用
- 自己有用感を育む学級づくり
- 教育相談の充実

<数値目標>学校評価児童アンケートにおいて「学校は楽しい」という回答を90%以上にする。

⑥いじめ問題への対応

- アンケート及び個人面談の実施
- 児童主体による「いじめSTOP集会」の開催
- いじめを許さないルール作り
- 全児童に対しての個別の教育相談の実施
- 情報モラル教育の推進

<数値目標>学校評価児童アンケートにおいて「いじめは許されない」という回答を100%にする。

⑦道徳教育の充実

- 全学級が参観日での道徳授業を公開
- 道徳授業の改善（「考え、議論する」授業）
- 地域人材を生かした授業実践、「こころの授業」充実、積極的な授業公開
- 体験活動の充実（施設訪問、福祉機関との連携）
- 公開授業、研究会を活用した道徳の研修推進

<数値目標>学校評価自己評価において「豊かな心の育成」という回答を85%以上にする。

⑧運動の日常化

- 主体的に運動できる環境の整備（体力づくりとボールパーク）
- 運動会と体力づくり、体育授業の関連
- 外遊びの推進

<数値目標>新体カテストの「持久力」「走力」「投力」において、全ての学年で全国平均以上に
する。

(3) 学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される学校

◎学校力の向上

- 人材育成（ミドルリーダー、若手育成）
- 教師力（資質、能力）の向上
- 組織力の向上
- 学校公開の開催
- 業務の簡素化・効率化、業務改善の意識化

◎家庭・地域との連携

- 学校の取組の発信（学校便り、ホームページ、メール配信）
- 地域参観日の実施
- 地域との情報交流
- 地域資源・人材の活用（「アウトリーチ事業」、「出前講座」）
- 「学びの3か条」の推進による生活習慣の確立
- 保護者研修会の開催（家庭学習、情報モラル、読書の充実）

◎緑陵中学校区エリアでの連携

- 学校教育力向上エリア会議
- 教科、道徳における授業実践交流
- 特別支援教育における支援体制の充実
- 生徒指導等の情報共有
- 系統性、統一性のある取組
- 小1プロブレムに対応した幼小連携の推進